

またまたメンバー増えました

- A「では今回の対談をはじめたいと思います！さて、どこでしましょうか？」
 M「私はこれから昼ごはんなの。皆さん、ランチミーティングにしましょう（キラリ）」
 A「キメ顔でどうしたんですか……。あ、美味しそうなタコライス」
 M「響きがかっこいいから言ってみただけ♪というか大所帯ねえ」
 A「そうなんです！なんとフラミンゴことFさんに続き、SさんがYA担当に入ってくださいました。こんなに急に増えるなんて思っていなかった」
 S「Sです。よろしくお願いします」
 A「よろしくお願いします。ということはSさんにもニックネームが？」
 F「スフィンクスしか思いつきませんでした……。！」
 M「Sさんはエジプト好きなんだって。今まで3回行ったらしいわよ」
 A「3回も!?海外旅行がお好きなんですか」
 S「そうでもないです。たまたまエジプトに行ったら良くて3回行きました」
 M「そしてハルキスト」
 A「ええっ、もしかして新作が出たら発売日に買いますか？」
 S「発売日には買わないです（苦笑）でも買って読みます」
 M「それ私も同じこと聞いちゃったわよ。でもこれじゃあ毎回メンバー紹介の対談じゃない！今回の展示テーマはサイエンス。サイエンスといえば自由研究。自由研究といえば夏休み。さあ新メンバーたちよ、夏休みの思い出を述べよ」
 F「吹奏楽部でコンクールに向けて練習漬けでした」
 S「毎年蝉の声を聞きながら宿題どうしようかみたいな」
 A「わかります。だいたい最後まで残るのは自由研究と作文ですよ」
 F「自由研究で卵をお酢に漬ける実験をしたことがあります。お酢の酸で卵の殻が溶けて、ぶよぶよの卵ができるんです。すごいにおいがしましたが……。」
 M「何でそれをやろうと思ったのよ。私は読書感想文と人権作文と税金の作文とお米の作文と……。作文ばかり書いてたわ」
 A「そんなにあったんですか!?私も作文には最後まで悩まされましたね」
 F「読書感想文ならYAコーナーに過去の課題図書やおすすめ本の展示をしています。読む本に迷っていたらぜひ見に来てくださいな」

- M「さ、Sさん。最後にご挨拶を」
 S「スフィンクスSをよろしくお願いします」
 A「みんなで頑張りましょう(*^^*)」
 M「読者のみなさんの夏休みの思い出も知りたいわ～」
 A「ぜひ、ホンダラケポストに投稿してください！」

←ブログやってるよ！<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



ホンダラケ

2019.8.1

夏がやって来ました。今年は夏休みらしくサイエンス特集！
 M「夏といえばホラーじゃない！」A「今年は忘れてください」

サイエンス☆Y



プチ・プロフェスール 伊与原 新：著

KADOKAWA 2011年刊 F/イヨ



物理学の研究者の卵である律（りつ）は、留学資金欲しさに小学生の理緒の家庭教師兼チャイルドシッターを引き受けることになる。愛用のハンダごてを携え、「リケジョ」になりたいというこの一風変わったお嬢様は、学校で噂になっている「幽霊が出る」という話を確かめてみたいと言うが……。行動力抜群で自然体の理緒と（ちょっと）不愛想な律のコンビが楽しい、2人のリケジョが身近な謎を「カガクテキ」に解決するミステリーです。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
 2か月に1度、年6回発行予定です。
 ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「天体」。

夏の夜空は星座でいっぱい。ロマンチックな本を並べてくれるのかな～？

翼の折れた天使たち 星

Yoshi: 著 2006年刊 双葉社 F/ヨシ

この本は、実体験をもとにつくられた小説です。いつも死にたいと感じているユリと、そんな彼女の隣に立つ少年、裕樹を描いた物語の「衝動」など5作品を収録しています。書名にある「星」は暗い夜空に浮かぶ星のように、絶望からの救いを意味しています。全ての作品に違った形の救いがあります。あなたに合う救いが、きっと見つかるはずです。



P.N.リダントシュード (高校1年生)

新着図書 Pick Up

『平和のバトン』 弓狩匡純: 著 くもん出版 2019年刊



319. 8/19

8月6日は広島に原子爆弾が落とされた日。学校で必ず習うし、知らないという人はいないでしょう。けれど、「あの日」から70年が過ぎ、語り部となってくれている実際に原爆を体験した人々が、少なくなっているのも現実です。この本は広島の高校生たちが、原爆の証言者である被爆者と、密接に話をしながら当時の様子を1年かけて油絵にするというプロジェクトについて書かれたものです。原爆を描くということは、遺体を描くこともあります。それでも次世代に繋ぐために証言者と話をし、大切な記憶の絵を描く高校生たち。戦争も原爆も知らない彼らが、この絵を描くことで感じ取ったことはなんだったのか、一緒に考えてみましょう。

ホンダラケポスの投稿を紹介するコーナー 15

『ほかほか落ご飯 居酒屋ぜんや』 坂井希久子: 著 角川春樹事務所
読むだけで料理の味が口いっぱいに広がり、おもわず「おいしい！」と言ってしまうくらい美しい描写がみりよ的です。はふはふと自分が食べてるそうぞうをしてしまいます。主人公が武家の次男坊のわりにおっとりとしており、動物や人に対してすごく愛情があるのがつたわります。とくにウグイス!!

P.N.柳さん

紹介ありがとうございます！ 枠をはみ出すほどにびっしりと書かれた感想に、この本がどれだけ好きかが強く伝わってきました。時代小説です。でもでも、歴史の難しい知識はいりません。最近、喫茶店など、食事処を舞台にしたライトミステリーが多いような気がしますが、そういったものが好きな人は楽しめるんじゃないでしょうか。主人公は、武家の次男。ウグイスをきれいな声で鳴くように育てるのを仕事にしています。そんな彼が友達につれられて訪れた居酒屋。そこの美人女将・お妙の出す食事が絶品。たしかに食べ物の描写が丁寧で、読み終わると、おいしそう、食べてみたい! と思います。夜中に読むのは、危険、かも？



F サカ 2016年

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『柿の種』 寺田寅彦: 著 岩波書店 1996年刊

棄てた一粒の柿の種 生えるも生えぬも 甘いも渋いも 畑の土のよしあし

どこから、「あの、小腹がすいたときにぴったりのあれ!？」という声が聞こえてきそうです。そうなんです、実は1袋に入っているおかきとピーナッツの比率は決まっているらしいですよ……って、違います! (関係者から怒られそう。)

物理学者であり、随筆家でもある寺田寅彦氏のエッセイ集。鋭い視点で日常を見つめていたり、かと思えば飼い猫のための歌を作ったり (なんと楽譜もあります!)、どの文も味わい深いのです。

章も題もなく、どれも1ページ前後の短文ばかり。通学電車の中で、夜寝る前の布団の中で読むのにぴったりですよ。



E/テラ